

# 2025 「ことばの森教室」第1回優秀作品紹介

<小学校5年生>

作文課題「お手伝いしたり働いたりして、感じたことや考えたこと」

5-① 「お手伝いしたり働いたりして感じたことや考えたこと」

私は普段、まったく家の手伝いをしない。それどころか自分のことも人に任せることがあった。自分の飲んだ牛乳のパックを捨てなかったり、自分の服を選ばなかったりだ。

今までは家の人全てが全てしてくれていて、それが自分にとっての当たり前だった。ふと、畳んでいない洗濯物が目に入った。普段の自分なら無視していたが、その日は家庭科の授業のことを思い出し、畳んでみることにした。しかし、実際に畳んでみると意外と大変で、いつも家事をしてくれている家の人の大変さを強く感じた。そして、何とか畳み終えたのだが、ここからも大変だった。家の人と自分の服が分からず、服と一緒にしまったり、しまう場所が分からず、場所がぐちゃぐちゃになったりしてしまった。この経験を通して、自分がどれだけでできていないかが少し分かった気がする。

これからは少しずつ、家の手伝いをしてみようと思う。

5-② 「心に響いたありがとう」

マカロニサラダは、5才の時から食べ続けています。マカロニの食感と、マヨネーズの甘い味、ハムの味が組み合わさって、とても美味しいです。学校から帰って来て、マカロニサラダを食べると、疲れが取れます。大好きなマカロニサラダを、いつもおばあちゃんが作ってくれているので、お手伝いをして、おばあちゃんが少しでも楽になればいいなと思いました。

まず、材料はマカロニとハムとマヨネーズです。キュウリは嫌いなので入れません。作り方は、鍋

でマカロニをゆでる、ハムを一口サイズに切る、ボールにゆでたマカロニと切ったハムを入れて、マヨネーズをかけてよくまぜる。これで完成です。おばあちゃんが作ってくれたマカロニサラダと違う味がしました。

最後におばあちゃんが笑顔で、「ありがとう」と言ってくれました。その一言がとても心に響き、これからもおばあちゃんを手伝いたいと思いました。

### 5 - ③ 「祖母から学ぶこと」

私の家は家族が多いので、一日に1回から3回洗濯機を回します。干す作業も大変ですが、乾いた後のたたむ作業も大変です。その工程を、祖母が一人でしてくれています。

祖母一人では大変なので、土曜日と日曜日には私もお手伝いをします。私がお手伝いをする時は、自分のTシャツをハンガーに干したり、バラバラになっている靴下をそろえて干したりするなど、簡単にできることから教えてもらっています。一番難しいと感じたことは、たたむ作業です。服の種類によってたたみ方が変わるので、綺麗にたためるようになるには、練習が必要になりそうです。

今は、Tシャツのたたみかたをマスターできるように、祖母にコツなどを聞きながら練習しているところです。早く一人でも綺麗に服をたためるようになって、祖母の負担を減らしたいと思います。

### 5 - ④ 「楽しいと思って挑戦！」

私はお手伝いを通して、自分のできることをふやすのが大切だと考える。

最近、家庭科で「お手伝いができるようになろう」という学習をした。毎日お手伝いをするのは大変だった。めんどくさいと思っていた。でも、できることがふえるのは、ほんの少しだけうれしかった。じゃあ、何がいやなのか。デメリットは何なのか。私は考えた。出した答えは「時間がなくなるから」。だれでも自分の時間を大切に使いたいと思っているはず。きっと私も、心のどこかでそう思

っていた。ただ、家庭科の授業を通して、ほんの少しだけでもその気持ちがなくなるといいなと思う。

そんなに深く考えたくないからだ。

気持ちを大切にしたい。めんどくさいと思うことを、楽しいと思いたい。うれしい時は喜んで、おこりたい時はおこる。素直な気持ちを持って、これから先ずっと過ごしていきたいと思った。

## 5 - ⑤

### 「ほっとするお手伝い」

ぼくのお手伝いは、おばあちゃんの様子を見に行くことです。おばあちゃんは、一人暮らしをしているけど、病気もあるし足も悪い。だから元気かどうか、おばあちゃんの家に行って様子を確認しに行ってます。

きっかけは、パパに、学校帰りにおばあちゃんの様子を見てと言われたからです。ぼくもおばあちゃんのことを気になっていたから、すぐに返事をしました。おばあちゃんの家に戻って「ただいま」と言って、すぐに「おかえり」と声がすると、少しホッとしておばあちゃんとおしゃべりしたり、一緒にテレビを見たり、用意してくれたお菓子を食べるのが楽しみです。

今日も元気であることがわかると、よかったなと安心します。おばあちゃんが長く、今の家で生活ができるように、これからもぼくは、学校帰りにおばあちゃんの家によって、たくさんおしゃべりをしていきたいと思います。

## 5 - ⑥

### 『『手伝い』ではなく『協力』』

私のお母さんは、「家族は『チーム』で、家の仕事はみんなの仕事、お母さんが主力選手でやっている。」といつも言っている。

チームの一員として私がやっているのは、お風呂場掃除とカーテンの開け閉めだ。でも、できない日がある。それは、習い事がある日や、疲れていたり面どうくさく思ったりしてしまう時だ。そんな

時は、お母さんがやってくれる。

たまに料理と一緒にする時がある。この前、ハンバーグを作った。まず、タマネギをみじん切りにした。手を切りそうで怖かったけど、完成して食べてみたら、すごく美味しかった。お母さんもお父さんも「美味しい」と言ってくれてうれしかった。コロッケを作った時に、「衣をつけるのを一緒にやると、はやく終わる」とお母さんが喜んでくれた。

家の仕事は、協力してやると早く終わるし、楽しくなるんだとわかった。これからはもっと仕事を増やしていきたいと思った。

## 5 - ⑦ 「ありがとう」

この間、学校の宿題で家のお手伝いをするっていうのがあって、おふろそうじを1週間しました。いつもお手伝いはしていません。そうじもお手伝いも、好きではありませんでした。

毎日夕方お母さんに、「おふろそうじは？」と言われ、「あ、そうだった。やりたくないな。」と思いながら「後でやる」と言ってしまった。何回も言われ、やっとおふろ場に行きました。そうじを始めるまで、いやだなと思って、毎日いやいやそうじをしました。でも、お父さんとお母さんが「ありがとう。きれいになって、気持ちよく入れるよ。」と言ってくれて、すごくうれしかったです。

お父さんやお母さんがやってくれるのは、当たり前になっていました。お礼もたまにしか言わなかったのも、もっとありがとうと言いたいです。

## <小学校6年生> 作文課題「今一番がんばっていること」

### 6 - ① 「卒業までに」

僕が一番頑張っていることは、そろばんだ。なぜなら、小学1年生の頃からしていたそろばんが、ついに1級になり、そろそろ3段になることができるからだ。

姉がそろばんをしていた影響で、僕もそろばんを始めた。しかし、僕はそろばんが少し苦手だった。なぜなら、暗算の方がスラスラできるし、制限時間が合計12分で短期集中できるからだ。それに対してそろばんは、合計41分かかり、長時間の集中力が必要なのだ。僕は長時間集中するのが苦手で、短期集中の方が得意だった。その後、長時間集中するのが得意になったのは、3級になった時だ。3級から追加された応用計算の計算方法を学んでいるうちに、「やっぱり楽しい」と感じてくるようになった。そして、僕はある目標を決めた。「6年生卒業までに段に行く」。

先月、1級の試験に合格できた。絶対に目標を達成するために、頑張って練習したい。

## 6-② 「私がかんばっていること」

私が一番頑張っていることは、そろばんです。今は1級のプリントをしています。級の中で一番難しい計算です。気が飛ぶほどの数を計算しています。去年も1級の試験を受け、300点中275点で合格したのですが、300点の満点を取るために再度試験をします。

1級の合格を目指していた頃は、「本当に受かるのかな。」と不安でした。そんな時に、「数は少なくてもいいから、毎日練習することが大切。」と、そろばんの先生が声をかけてくれました。そこから私は、1級を合格するために2週間毎日欠かさず練習しました。そして、努力が実を結び、合格することができました。

1級を満点合格することができれば、大きな大会の団体戦にも貢献することができます。今回の1級も毎日練習し、満点を取りたいです。そして、家族と一緒に喜び合いたいです。

## 6-③ 「三柘歌舞伎太鼓」

ぼくは、今バチをにぎっている。真剣な気持ちで太鼓に向かっているのだ。しめ太鼓の音に合わせ

て演奏が始まると、無心で太鼓を叩き始める。集中していると、あっという間に曲が終わってしまう。

演奏が終わると、間違えてしまった部分の反省の気持ちと、やりきった達成感が生まれる。

これまで本番では、一度も間違えずに演奏できたことがない。小学生のうちに、完璧な演奏ができるようになりたい。そのために、普段のけいこをよりまじめに取り組んだり、家で練習したりしてうまくになりたい。

太鼓といっても、いくつか種類がある。主に、丸どう、立ちだい、しめ太鼓、すもうの4種類がある。その中で今までは、演奏出来るのは丸どうだけだったが、いずれ全種類の太鼓を演奏できるよう、これからも一生懸命頑張りたい。

ぼくは、太鼓が大好きだ。

## 6 - ④ 「息をするように」

僕ががんばっていることは剣道だ。幼稚園から始めたので、今年で7年目になるが、けいこを休んだのは5回だけだ。今というより、剣道は常に自分の生活の中にあった。

週に3回のけいこは大変だし、土日は審査や試合で朝早く起きないといけない。遊ぶ時間も限られるが、一緒に切磋琢磨してきた仲間が存在が大きいと思う。日々のけいこや合宿など、体力的にも精神的にも大変で、くじけそうな時もあった。でも団体戦では、自分の責任を感じつつ、励ましが大きな力になった。袴を着ること、防具をつけることなど、上級生や父兄の方にたくさん助けてもらった。自分が下級生の袴を着る手伝いをしていた時、少し誇らしい気持ちになって、自信にもなった。

これからは、自分が助けてもらったことを、下級生に積極的にしていきたい。自分が剣道をしてきたこの達成感や責任感の気持ちを、つないでいきたい。

## 6-⑤

### 「今度こそ」

「大じょうぶかな？」6月の終わりにピアノの発表会がある。発表会に向けて、毎日練習をがんばっている。練習で上手いかなと、私はいつも一昨年のピアノの発表会の出来事を思い返してしまう。

私は2曲演奏した。1曲目はスムーズに弾けたが、2曲目は音に合わせて弾く曲だった。クライマックスの所で緊張したあまり、頭が真っ白になってしまった。何とか最後の一つの音を弾いて、終わってしまった。その時、泣きそうになった。

だから、今度の発表会も本番は間違えないか、手が思った通りに動くのか、とっても心配だ。それに今度は、3つのピアノ教室と一緒に開催だし、私の親せきがたくさん来て、プレッシャーがかかる。きっと、本番はとても緊張してしまうだろう。でも今度こそは、失敗をしないでやりきりたい。そのためには、発表会まで頑張るって何度も何度も練習したい。そして、絶対成功させてみせる。

## 6-⑥

### 「負けたくない」

「バスケなんてやらなければよかった」そう思っていた。

私がバスケを始めたのは、1年生の時母に半ば強引にスポーツ少年団に入れられた。バスケ選手になりたくないのに、バスケをする意味が分からなかった。2、3年生の時も、気が進まなかった。4年生になって、ずっと一人だった私の学年に、新しく人が入団してきた。同学年の仲間が出来たことが嬉しかった。5年生になり、段々上達する周りを見て焦りを感じた。負けたくなくて、バスケを全力で練習するようになった。6年生、キャプテンになった。キャプテンは思った以上に大変で、練習も声出しも人一倍頑張らなければいけないし、プレッシャーで毎試合胃がきりきり痛んだ。嫌なこともあったけれど、この6年間で体力、向上心、自信が身についた気がする。

中学校に行っても、バスケを続けていこうかな。「バスケを続けてよかった」いつか、そう思える日が来るように。

6 - ⑦

### 「自分のためにがんばる」

ぼくは今、社会科の授業をがんばっています。5年生から始まった社会科は、ノートを書いたりたくさん文を読んだりするので、難しいです。でも6年生になったのをきっかけに、当たり前のようにできるようになったと思えたことが2つあります。

一つ目は、先生の話をよく聞くことです。無駄口をしないで、よく見て聞くことです。少し分かることや、できるようになったことがありました。わかった、と感ずることができました。

二つ目は、ノートを書くことです。ノートを書くことはめんどくさいけれど、自分の力で書こうという気持ちで頑張っています。注目されたりほめられたりすることはないけれど、やっています。自分のためにすることなので、当たり前のように続けたいです。

この2つの事をこれからも頑張って、中学校を目指したいです。